

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	地域人材による魅力創造事業			事業番号	25-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	企画部	山室好正	広報戦略課	桑原 豊	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち	
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり	
		施策展開の方向	11	多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる	
		施策	25	シティプロモーションの推進	
予算事業名	シティプロモーション活動事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成29年度	～	終了年度	—
関連法令等					
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画	いせはらシティプロモーション推進計画 いせはらシティプロモーション指針			計画期間	平成27年度～令和元年度 令和2年度～(指針)
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	若者がSNSを使って自己表現をしたり、仲間や社会との繋がりを構築するようになってきました。また、他市町村で生まれ育った市職員の割合が高くなってきています。				
目的 (何をどうしたいのか)	若い世代の活力を生かすとともに、シティプロモーションを担う人材を育成しながら、地域の新たな魅力を発掘・磨き上げ・創造するシティプロモーション活動を実施します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民、学校、企業、関係団体、他市町村住民				
事業内容 (手段、手法など)	教育機関との連携により、若い世代のアイデア等を活用し、地域の魅力の掘り起こしや創造に繋がるシティプロモーション活動を展開するとともに、伊勢原をより深く知るための自主的なプロモーション活動を支援します。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	大学等との連携	動画作成	動画配信	動画配信	
	市民・団体等との連携	SNS配信等	SNS配信等	SNS配信等	
職員グループへの活動支援	イベント協力	イベント協力	イベント協力		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	プロモーション公認サポーター数	25団体(個人) (平成28年度)	40団体(個人)	42団体(個人)	44団体(個人)

 事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	若者のアイデアやスキルを生かした短編動画を制作し、効果的な配信に取り組み、市内外に対して強く「いせはら」の発信に努めます。 また、市民等におけるシティプロモーション活動の担い手として、シティプロモーション公認サポーターの認定を推進し、SNS等を活用した連携強化を展開します。				
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施		<input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>		
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>	大学、市民・団体等との連携による	
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	大学等との連携	動画作成	動画作成・配信	動画作成・配信	
	市民・団体等との連携	SNS配信等	SNS配信等	SNS配信等	
	職員グループへの活動支援	イベント協力	イベント協力	イベント協力	
<b>実施した取組の内容</b>	産業能率大学及び向上高等学校と連携し、若者のアイデアを活かしたシティプロモーション動画の作成・配信を行いました。シティプロモーション公認サポーターの活動について市ホームページや公式SNS等で紹介したほか、名刺作成等の支援を行いました。また職員グループの協力を得て、ステイホーム用にクルリンの謎解き問題シリーズをホームページに掲載したほか、活動についてのパブリシティを行いました。				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状値】</b>	<b>年度</b>		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	プロモーション公認サポーター数	25団体(個人) (平成28年度)	49団体(個人)	52団体(個人)	60団体(個人)

	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
内訳	<b>事業費合計 (a)</b>		13	千円	55	千円	58	千円	58	千円	58	千円	58	千円	
	内訳	国県支出金 ①		0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		地方債 ②		0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		その他特財 ③		0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③		13	千円	55	千円	55	千円	58	千円	58	千円	58	千円
<b>国県支出金の内容</b>															
コスト	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有		<input checked="" type="radio"/> 無		<b>前回の改定時期</b>								
		その他													
人件費	正規職員		0.04	人	340	千円	0.04	人	348	千円	0.04	人	344	千円	
	その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円	
	人件費合計 (b)		0.04	人	340	千円	0.04	人	348	千円	0.04	人	344	千円	
トータルコスト (a)+(b)			353	千円	403	千円	403	千円	402	千円	402	千円	402	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	年間観光入込客数		単位	年間観光入込客数		単位	年間観光入込客数		単位	年間観光入込客数		単位	
		対象数	1,949,752	人	1,985,427	人	1,330,730	人	1,330,730	人	1,330,730	人	1,330,730	人	
	総事業費 / 対象数	0	円	0	円	0	円	0	円	0	円	0	円	0	円

評 価 (Check)				
<b>進捗状況</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	いせはらシティプロモーション指針に基づき、計画どおり大学生との連携による動画作成・配信や、シティプロモーション公認サポーターの活動支援をはじめ、コロナ禍ならではの動画配信やSNS等での情報発信を行いました。
<b>実施水準</b> [選択・記入]	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	公認サポーターの登録数は順調に増加しており、類似した制度を有する近隣自治体と遜色なくプロモーション活動がなされています。今後、SNS等を活用した更なる連携や、彼らの活動を生かした取り組みを検討する必要があります。
<b>有効性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	地域の活力を高め、若い世代へ伊勢原の魅力をPRする手段として有効な事業であり、今後も継続実施する必要があります。
<b>効率性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	多額の投資的経費をかけることなく、市民や学生、企業、関係機関を巻き込んだプロモーション活動が行えています。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
<b>事業推進上の課題</b>	シティプロモーション公認サポーターの継続的・効果的な活動促進を図るため、更なる連携・活用方法を構築する必要があります。また、インフルエンサー的な役割を果たす、著名なサポーターの認定・活用方法についても検討する必要があります。
<b>令和3年度の取組方針</b>	若者のアイデアやスキルを生かした短編動画を制作し、効果的な配信に取り組み、市内外に対して、強く「いせはら」の発信に努めます。また、市民等におけるシティプロモーション活動の担い手として、シティプロモーション公認サポーターの認定を推進し、SNS等を活用した連携強化を展開します。合わせて、著名人によるサポーター活動について調査・研究を行います。
<b>所管部長による総評</b>	学生等と連携したプロモーション動画の制作・配信は、市内外の若い世代に伊勢原の魅力をPRするツールとして有効な事業であり、継続して実施する必要があります。シティプロモーション公認サポーターの登録数も順調に増加しており、シビックプライドを前提とした様々なプロモーション活動がなされていることから、引き続き支援を行うと共に、連携強化を図る必要があります。